

# 令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 宮城県 】

学校名【 白石市立白石中学校 】

1 実践テーマ	①・II・III・IV・⑤（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	宮城県白石市立白石中学校 全校生徒376名 調べ学習実施学年：3学年126名 全国展開事業アンケート実施学年：3学年126名 講演会聴講：全校生徒376名，教職員35名 講演会后アンケート：全校生徒376名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 保健体育 ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	世界で活躍できる生徒の育成 ～オリンピック・パラリンピックから学ぶ国際理解～ オリンピック・パラリンピックという世界的規模のスポーツ大会を通じ、歴史や国際・異文化の理解をすることで生徒の知見を広げ、国際社会で活躍できる人材を育てる。
5 取組内容	○実践1：調べ学習（3学年）【8～10月】 ・東京オリンピック前後に、生徒達からオリンピックの疑問について調査した。 ・その疑問を自分たちで調べてまとめた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                 ・1人1台タブレットが支給されたのでICT教育を意識して行かせた。スライドを共有しそれぞれ1クラスずつ行った。【調べる→深める→まとめる→見やすく】の過程で1つの疑問に対して、2～5人が関わり完成した。             </div> ・完成したスライドは他学年にも配り、オリンピック、パラリンピックへの興味関心を高めた。



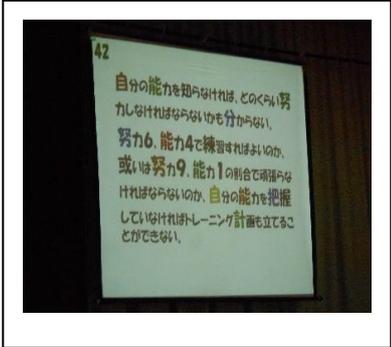
○実践2：岡村輝一氏による講演会【11月】

・ミュンヘンオリンピック体操男子団体に金メダルを獲得した岡村輝一氏に講演していただいた。

テーマ「オリンピックは天才でも努力でも行ける ～一技千本～」

・岡村氏が出場したミュンヘンオリンピックの話を中心に、自身の経験を生徒にお話しいただいた。また、当時獲得した金メダルをご持参していただき、全生徒に触らせていただいた。

演題「オリンピックは天才でも努力でもいける」  
～一技千本～  
天才ではない自分は期待されなかった。難しい技もできなかった。そこから自分はどのように頑張っていけばオリンピックに行けるのか考え実践した。天才が難しい技に挑戦しているとき、自分は演技を完璧にする練習をした。天才が2～3回で出来る技を20～30回練習し、結果がついてきた。



<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べ学習では、様々な疑問を自ら解決していく過程で、次に出た疑問を調べだすなど知的探求心が向上した。ICT の操作技術も上がり、分からないことは生徒間で教え合うことで、学び合いの場となった。</li> <li>・講演会後のアンケートでは、勉強や部活動を頑張ろうと思ったという回答が半数以上見られた。次に生活習慣の見直しや、夢や目標に向かう気持ちが強くなったという回答が2割強見られた。オリンピックの歴史を感じることができた、オリンピック・パラリンピックへの興味関心が高まったという回答は2割ほどであった。オリンピック・パラリンピックの選手になりたいと思ったという回答も1割ほど見られた。これらのアンケートからも講演会では、オリンピック・パラリンピックそのものの興味関心の向上も見られたが、目標に向かう気持ちや、努力する大切さを感じ取ったと回答した生徒が多かった。</li> </ul>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピックご本人による講演</li> <li>・約半世紀前のオリンピックを知ることで、現代のオリンピックとの比較から歴史を知る。</li> <li>・生徒用タブレットを使い、ICT教育の実践。</li> <li>・引き継ぎながら調べていくことで、前任者の意図を考えながらスライドを作成していく思考力、判断力、表現力の育成。</li> </ul>
<p>8主な課題等</p>	<p>改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本取組内容の場合、技術家庭科など他教科との連携や、行事と絡めた授業展開が望ましい</li> </ul> <p>課題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度はオリンピック開催年、開催国なので興味関心を高めることは難しくなかった。今後、開催してない年などに事業展開を行っていく場合、前回大会のダイジェスト映像などで事業の導入から興味関心を引き出していく工夫は必要と思う。</li> <li>・何を視点に事業計画を立てていくかにもよるが、障害者スポーツの理解や、日本の伝統やオリンピックの歴史などの視点の場合は体験教室、講演会など実際にオリンピック、またはオリンピックに直接関わった人物からの指導が最も効果がある。多様な講師の人材確保が必要。</li> </ul>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育理論の授業による授業実践</li> </ul>